

平成24年度

環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業
やまとちゃ

平成25年

World Seed

目次

1. 基本方針	3
1.1. 背景と目的	3
1.2. 効果	3
1.3. 本事業実施内容	3
1.4. 本事業概要図	4
1.5. 本事業実施体制図	4
1.6. 実施スキーム	5
2. リユースびん新商品の開発	6
2.1. リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』の開発	6
3. リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』容器グラフィックデザインコンペティション及び展覧会の開催	8
3.1. 目的	8
3.2. 実施方針	8
3.3. 概要	8
3.4. 実施結果報告	11
4. リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』の普及	12
4.1. 公共施設で開催される会議等での普及	12
4.2. 公共施設におけるリユースびん商品の導入(奈良県内地方公共団体)	14
4.3. 全体のまとめ	16
4.4. 奈良県内ホテル・旅館での普及	16
4.5. 奈良県内飲食店での普及	17
5. 普及実績	17
6. 使用済みびんの廃棄物処理に伴う費用の削減量	17
7. 本事業実施における課題	18
8. 本事業実施を通しての今後の展望	18
9. 本事業の総括	18
10. 備考	19

1. 基本方針

1.1 背景と目的

World Seedではリユースびん容器を用いた商品(以下、リユースびん商品)を、公共施設、ホテル・飲食等を中心とした所において、普及することにより、広く市民に対しリユース概念の発信ができると考えている。

しかしながら、リユースびんの地域循環が構築可能な奈良県において、地域のニーズにマッチしたリユースびん商品がなく、効果的に普及ができない状況にある。

本実証事業では、ニーズにマッチした新たなリユースびん商品を開発し、普及を行う。

また、リユース概念を広く社会に対し発信し、継続的且つ成長性のあるリユースびんの地域循環を展開する目的で、新商品の容器グラフィックデザインコンペティション並びに展覧会を開催する。

1.2. 効果

1)公共施設等でのリユースびん商品の効果的訴求による市民へのリユース概念の発信。

※公共施設等では、市民を交えた会議が多く開催されており、その会議においてリユースびん商品を提供することにより、視覚的にリユースの意味・重要性を伝えることができる。

2)容器グラフィックデザインコンペティション&展覧会開催によるリユース概念の社会的発信。

3)本事業実施による他府県でのリユースびんの地域循環の構築及びリユースびん商品の波及。

1.3. 本事業実施内容

1)リユースびんの地域循環が可能な奈良県において、リユースびん商品を開発・普及することにより、リユースびんの地域循環に寄与する。また購買意欲を高めるため、奈良県特産品の大和茶を使用し、商品付加価値を付ける。

2)新商品のリユースびんを使用する「環境的意義」、大和茶を使用する「地域的意義」を広く社会に発信し、リユース概念をより周知するため、容器グラフィックデザインコンペティション並びに展覧会(以下、本企画)を開催し、新商品のデザインを決定する。

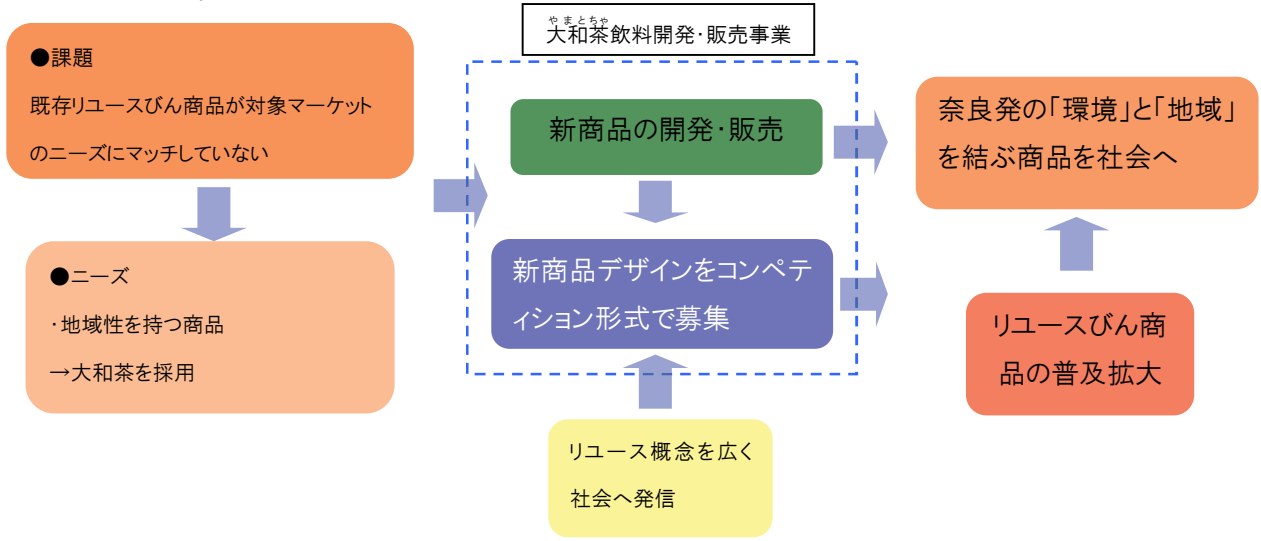
本企画では、集まったデザインを展覧会形式で展示し、一般市民、奈良県内の飲食店関係者に来てもらい、リユースびんの重要性を理解する機会を設け、奈良県におけるリユースびんの地域循環に寄与する。

3)普及対象は、公共施設、ホテル・飲食店等とし、リユース概念の発信を効果的に図れ、容器の回収が可能な所とする。

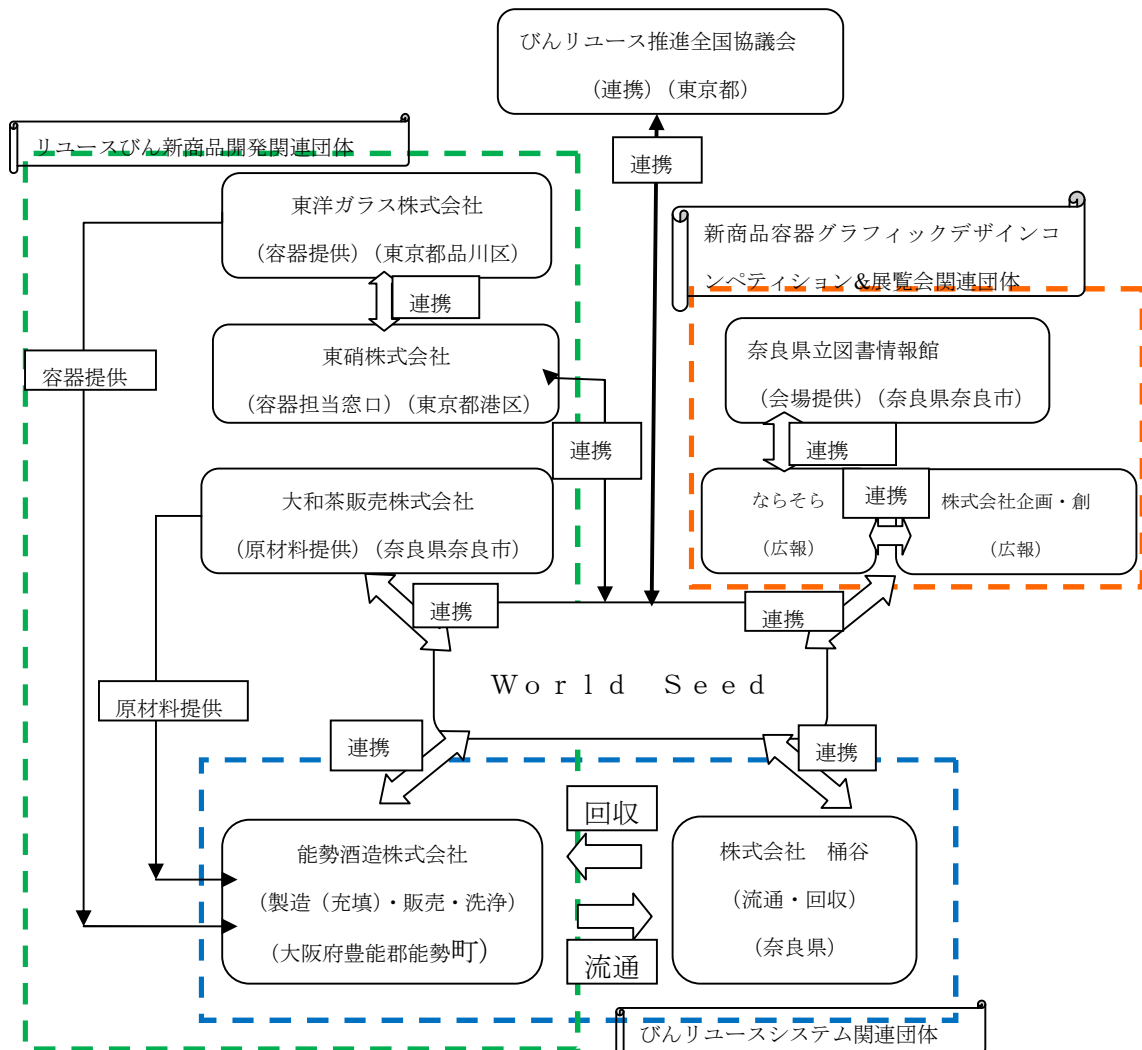
本事業では、公共施設でのリユースびん商品の普及がもとより、業務用となるホテル・飲食店等も普及対象とすることにより、本実証事業期間終了後も継続的に事業展開を可能にする。

4)奈良県びんリユース推進協議会(仮称)(以下、本会)を立ち上げ、奈良県におけるリユースびんの地域循環を目指す。本会は、奈良県内の地方自治体、市民団体、企業団体等を中心として構成し、広く多様な意見を共有して、びんリユース推進全国協議会と連携を図りつつ、奈良県でのリユースびんの地域循環を目指す。

1. 4. 本事業概要図



1. 5. 本事業実施体制図

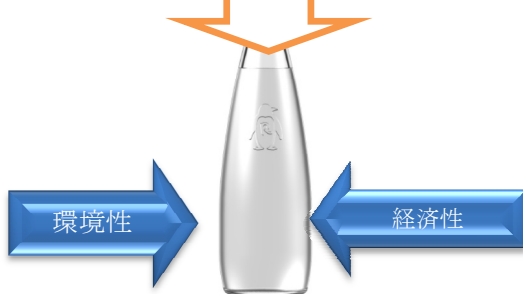


1.6. 実施スキーム

●課題

- ・容器包装廃棄物の増加による地球環境への影響増加
- ・奈良県をはじめとした地域力の減退

ごみが出ない容器を用いての商品開発及び販売



- ・製造・流通・回収・洗浄:「能勢酒造株式会社 (大阪府能勢町)」
- ・運搬・回収:「株式会社 桶谷(奈良県奈良市)」
- ・原材料提供(大和茶):「大和茶販売株式会社 (奈良県奈良市)」
- ・リユースびん容器提供(RDロップス 2号):
「東洋ガラス株式会社(東京都品川区)」
- ・RDロップス 2号容器担当窓口:
「東硝株式会社(東京都港区)」



寄付

●支援先

- ・環境保護活動を展開している団体

事業成長フロー

本事業システム化 (モデル化)
継続的な事業展開
事業拡大へ

奈良発!!

「環境」と「地域」
を結ぶ
奈良ブランド商品
の確立

販売マーケット

公共施設

- ・行政施設内で行われる会議での使用
- ・公共施設内での職員向けの販売
- ⇒市民への波及効果

飲食店&
ホテル

- ・ホテル内での観光客向け販売
- ⇒奈良県産大和茶の発信

イベント

- ・奈良県内でのイベント等で普及。リユース概念の発信を行う。

販売

収益

空き瓶返却時の保証金
寄付制度

取り組み発信

取組成長フロー

- ・環境負担の削減

地球環境
改善への
寄与

●循環型社会への転換
⇒リユース概念の普及拡大

2. リユースびん新商品の開発

2. 1. リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の開発(以下、本商品)

主に奈良県内の公共施設及びホテル・旅館及び飲食店をターゲットとしたリユースびんを用いた新商品を開発した。

1) 製造について

新商品の開発にあたって、製造元には、安定的な商品の製造、自社で洗びん設備を有している「能勢酒造株式会社(大阪府能勢町)」へ依頼した。同社は既にリユースびん容器を用いた製造・販売しており、リユースびんの特性について高度な知識を有している。

2) びんリユースについて

本商品の安定的な供給及び確実な回収を実現するため、業務用リユースびん商品の供給と空き瓶の回収にノウハウのある「株式会社 桶谷(奈良県奈良市)」へ本商品の販売を依頼し、供給体制を構築した。

3) 原材料について

本商品の原材料は、JA ならけん(奈良県農業協同組合)グループの「大和茶販売株式会社(奈良県奈良市)」へ依頼し、奈良県で栽培された大和茶のみを使用、地域経済の振興へもつながる経済システムを確立した。

本商品は、リユースびんの普及により、循環型社会形成を通じた地球環境負荷の低減はもとより、地域経済の振興にも一助できる仕様とした。

4) 容器について

リユースびんの製造については、「東洋ガラス株式会社(東京都品川区)」へ依頼した。容器ラベルは、容器の直接印刷するACL印刷を採用し、より環境負荷を低減している。

5) 本商品のネーミングについて

ネーミングは、「株式会社 ニュー・シンク(東京都新宿区)」へ依頼した。本商品が末長く「永遠」に利用される願いをこめて「と、わ(To WA)」と命名した。また、大和茶の「和」、リユースびんの循環の「環」がひとびとを繋ぐ役割をしていることを伝えるため、ネーミング内に訓読点を入れている。「To WA」は、「わ」へ向かう意味をこめている。

6)本商品の概要

- ・商品名:リユースびん入り大和茶「と、わ(To WA)」
- ・びん:Rドロップス 2号 内容量:220ml びん自重 245g リターナブル設計
- ・名称(中身):緑茶 (清涼飲料水)
- ・原材料名:緑茶(奈良県大和茶)ビタミン C
- ・賞味期限:製造後 9 カ月
- ・保存方法:直射日光を避け、常温保存
- ・製造者:能勢酒造株式会社(大阪府豊能郡能勢町吉野 358)
- ・企画元:World Seed(大阪府八尾市)
- ・販売元(商品運搬空き瓶回収):株式会社 桶谷(奈良県奈良市)
- ・原材料(大和茶)提供及び協力:大和茶販売株式会社(奈良県奈良市)
- ・びん容器提供:東洋ガラス株式会社(東京都品川区)
- ・容器担当窓口:東硝株式会社(東京都港区)

7)料金体系(販売価格及び販売形態に関して)

- ・販売価格:105 円/本(税込)※卸値価格
- ・販売形態:株式会社 桶谷より商品の納品及び空き瓶の回収

【デポジット(保証代金)】

- ・瓶代金:10.5 円/本(税込)
- ・プラスチックケース代金:210 円/1 ケース(税込)

※デポジットについては、返却時に株式会社 桶谷より返金する。

8)商品仕様

- ・24 本入りプラスチックケース

本商品運搬用のプラスチックケースは、「能勢酒造株式会社」も専用 P 箱を使用した。

参照)容器写真



3. リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』容器グラフィックデザイン&コンペティションの開催

本商品のグラフィックデザインを決定するため、全国へ公募形式のコンペティション及び展覧会を開催した。

3. 1. 目的

奈良発の「環境」と「地域」を結ぶ奈良ブランド商品を確立するにふさわしい新しい本商品の容器グラフィックデザインを決定し、本事業について広く社会へ発信する。

3. 2. 実施方針

奈良県内の市民団体である「ならそら(奈良県奈良市)」と連携しながら実施、またコンペティション及び展覧会の会場として「奈良県立図書情報館(奈良県奈良市)」に協力を依頼した。

実施にあたっては、「大和茶」の地域意義、「リユースびん」の環境的意義、それぞれの効果的発信を基本とし、本商品容器のグラフィックデザインコンペティション及び展覧会を開催。一般投票も反映した選考によって社会的メッセージを伝え、商品ブランドとしての価値を高めた。

3. 3. 概要

1)グラフィックデザインの募集について

専用のホームページを開設、全国へ公募した。また、「ツイッター」・「フェイスブック」に代表されるソーシャルメディアを使い、広報力を強化した。

専用ホームページ:yamatocha-to-wa.com

ツイッター:yamatocha-to-wa

フェイスブック:www.facebook.com/yamatocha.to.wa

2)紙媒体の製作

グラフィックデザインの告知をするため、紙媒体を製作した。



3) 審査方法

3 人のエグゼクティブ審査員を招き審査を行った。また一次審査においては、集まったグラフィックデザインを会場である「奈良県立図書情報館」に展示、展覧会を開催し広く来館した一般市民にも投票による審査に参加する形態をとった。

■一次審査

来館者投票による得票数及びエグゼクティブ審査員得票数を合算し上位 5 作品を最終審査作品とした。

■最終審査(公開プレゼンテーションによる最終審査)

5 作品の最終審査として、展覧会の会場である「奈良県立図書情報館」にて公開プレゼンテーションによる最終審査を実施した。

最終審査は、3 人のエグゼクティブ審査員による審査とし、5 作品の中から 1 作品を選出した。

■エグゼクティブ審査員について

【デザイン分野】

平野 湊太郎 氏 (有限会社 平野 湊太郎デザイン研究所 所長)

【大和茶分野】

中田 博文 氏 (大和茶販売株式会社 営業部 課長)

【びん分野】

幸 智道 氏 (ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長)

4) 展覧会実施風景

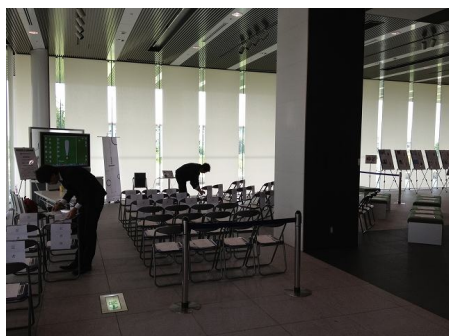
展覧会では、「奈良県立図書情報館」のメインエントランスホールにて、開催。グラフィックデザインの他に、本事業の説明を記載したパネルも展示し、本事業の発信を行った。



5) 最終審査実施風景(公開プレゼンテーション)

最終審査も展開と同じく「奈良県立図書情報館」のメインエントランスホールにて実施した。最終審査には、エグゼクティブ審査員の他、本事業に参画している関連団体及び地方公共団体の職員を来賓として招いた。

当日は、奈良市長の仲川 げん 氏をはじめ、奈良市環境政策課、生駒市環境政策課にも来賓としてお招きした。



6) 審査会実施風景

審査会は、5 作品の公開プレゼンテーション終了後、同館の別室にて行った。また、本商品製造元の「能勢酒造株式会社」並びに本商品容器製造元の「東洋ガラス株式会社」にもオブザーバーとして参加いただいた。



3. 4. 実施結果報告

1)開催日程

- ・7月26日～8月31日:容器グラフィックデザイン募集
- ・9月11日～9月23日:展覧会実施(@奈良県立図書情報館)
- ・9月22日:最終選考作品公開プレゼンテーション、商品化デザインの決定
(@奈良県立図書情報館)

2)実施結果について

- ・デザイン応募総数:84作品
- ・展覧会・来館者投票 89票
- ・公開プレゼンテーション参加総数:約70名
- ・関係団体参加数:34団体
- ・メディア:読売新聞社 奈良経済新聞社 奈良テレビ

3)審査結果

- ・84作品の中から22日の公開プレゼンテーションを経て、1作品を選出。
- ・エグゼクティブ審査員の審査会にて小西 景子氏のデザインを採用することに決定。

4)メディア掲載について

- ・奈良新聞社(9月21日)
- ・読売新聞朝刊(奈良地域面)(9月27日)
- ・朝日新聞朝刊(奈良地域面)(9月29日)
- ・奈良新聞朝刊(9月28日)

5)協賛団体・企業

能勢酒造株式会社・株式会社 桶谷・ガラスびんリサイクル促進協議会・日本ガラスびん協会・東洋
ガラス株式会社・びん再使用ネットワーク・新日本流通株式会社・株式会社 吉川商店

※順不同

【後援】

生駒市・社団法人 日本グラフィックデザイナー協会奈良地区(JAGDA 奈良)

※順不同

4. リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の普及

本商品の普及においては、公共施設で開催される会議等での利用を中心とし、主に奈良県内を中心としたホテル・旅館及び飲食店に普及した。

4. 1. 公共施設で開催される会議等での普及

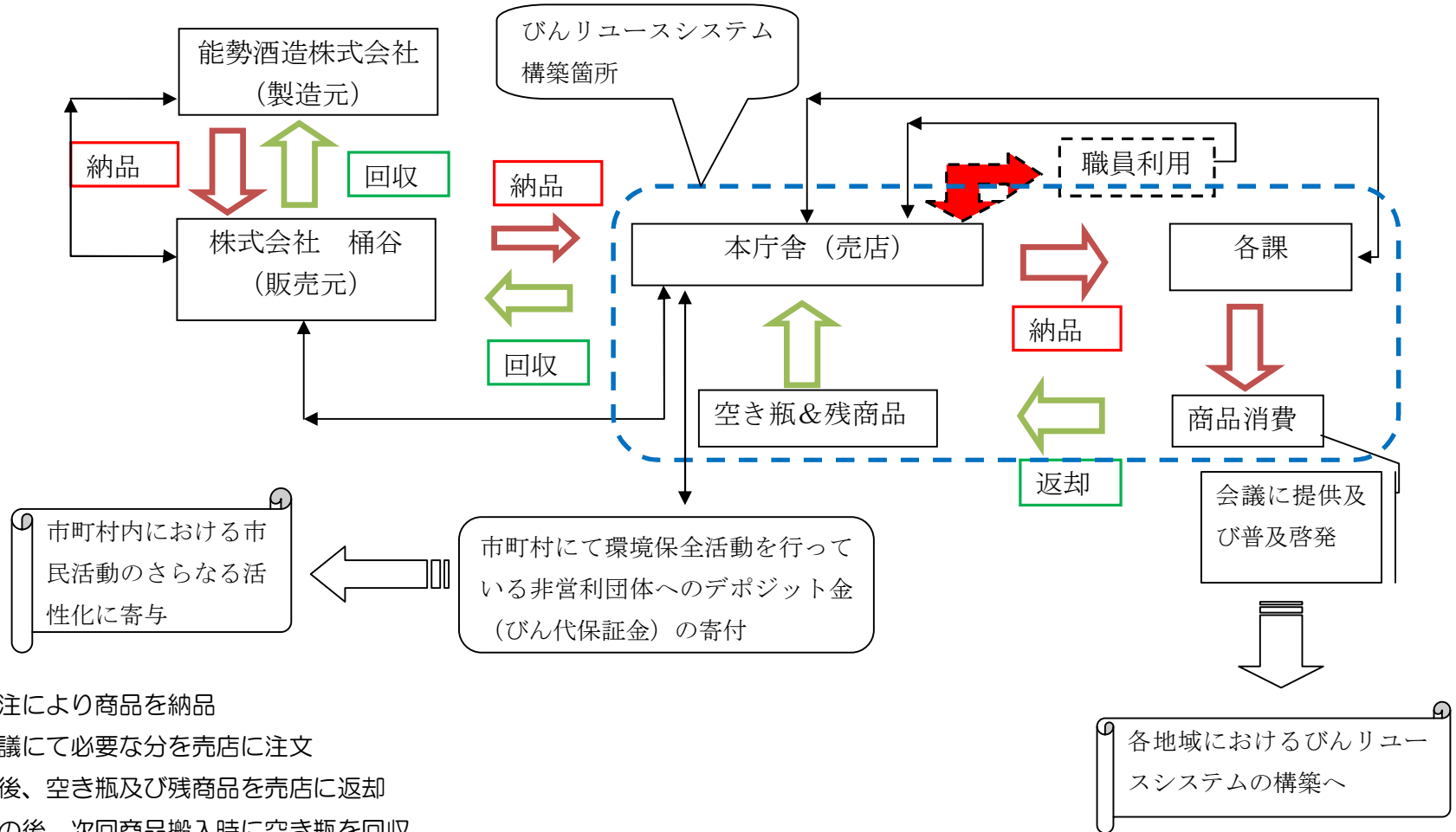
1) 環境関連課との連携体制の構築

奈良県内地方公共団体の環境関連課と連携体制を構築し、普及を図った。公共施設におけるリユースびん商品の導入には、環境関連課による理解が不可欠である。

2) 公共施設におけるびんリユースシステムの構築

奈良県内地方公共施設においては、庁舎内に売店がある場合、売店にて会議等で使用するペットボトル飲料(主に茶飲料)を用いる場合が主流であった。そのことから、公共施設での普及に対し、以下のびんリユースシステムを構築し、地方公共団体に対し提案を行った。

◆公共施設におけるびんリユースシステム（本庁舎の場合）



- 売店の発注により商品を納品
- 各課の会議にて必要な分を売店に注文
- 会議終了後、空き瓶及び残商品を売店に返却
- 一定期間の後、次回商品搬入時に空き瓶を回収
- 「←→」はキャッシュフロー

4. 2. 公共施設におけるリユースびん商品の導入(奈良県内地方公共団体)

1) 生駒市の事例

- ・人口: 約12万人 奈良県内第3位の都市
- ・連携体制: 生駒市 環境経済部 環境政策課
- ・本商品販売窓口: 生駒市職員互助会 (管轄: 市長公室 職員課)
同会は運営している本庁舎内売店において本商品を販売する。販売にあたり、本商品販売元の「株式会社 桶谷」との売買基本契約を締結した。
- ・販売開始日・価格: 平成25年1月15日 ・価格120円/本(デポジット10円/本)
- ・デポジット(保証代金): 生駒市及び同市の市民が運営する「エコネット生駒」に対し「株式会社 桶谷」より返金されたデポジットを寄付する。
- ・今後の展開: 市内にある生涯学習施設(6施設)における本商品の販売を予定している。
同施設は、指定管理業者である「株式会社 JTB コミュニケーションズ」が運営している。※平成25年度4月より販売開始予定。

2) 導入の経緯と今後の展望

【生駒市 環境経済部 環境政策課 課長 岡田 敏幸 氏】

・経緯

本市においては、環境マネジメントシステムを導入しており、リユースの促進を掲げている。本商品は、本マネジメントシステムに合致するものであり推進すべきものとして考えた。また容器包装の自治体負担を軽減でき、リユースの重要性を広く公共の場で「環境」と「経済」の視点でアピールできる。

・今後の展開

本市にある企業でも導入を促していきたい。

3) まとめ

生駒市においては、同市が開催するシンポジウムでも本商品の導入が進んでいる。また、空き瓶返却時に発生するデポジットについて寄付制度を設けることにより、資金の地域循環にも寄与できている。

■ 利用風景

生駒市並びに環境首都創造 NGO 全国ネットワーク主催の「環境首都創造 自治体全国フォーラム2012 in 生駒」にて本商品を利用いただいた。本フォーラムは、全国の自治体にて実施されている環境政策を発表し意見交換をするフォーラムである。(開催日: 平成24年 11月19日・20日)



4) 奈良市の事例

- ・人口：約36万人 奈良県内1位の都市
- ・連携体制：奈良市 環境部 環境政策課
- ・本商品販売窓口：株式会社 永田チェーン(管轄：人事課)

同社が、奈良市役所本庁舎にて運営している売店にて本商品を販売する。

- ・販売開始日・価格：平成25年1月15日・120円/本(デポジット10円/本)
- ・デポジット(保証代金)：売店での空き瓶返却によるデポジット返金
- ・今後の展開：市内生涯学習施設(24施設)を運営している「公益財団法人 奈良市生涯学習財団」と施設内会議等での利用を開始。

既に昨年12月より同財団事務局にて利用を開始しており平成25年度4月より各施設でも利用を開始する。

5) 導入の経緯と今後の展開

【奈良市 環境部 環境政策課 課長 新井 哲彰 氏】

・経緯

本市の望ましい環境像もひとつに【「もったいない」の心を大切に、ごみゼロを目指した循環型都市の実現】がある。本商品は、何度も使用する(リユース)ことから、「もったいない」にピッタリである。また、本市は、大和茶の生産地であり、奈良ブランド商品のひとつにもなることから導入に至った。

・今後の展開

リユース食器(コップ)と併せて会議・イベントで導入し、「もったいない」の心を広げていきたい。

6) まとめ

奈良市においては導入にあたり、職員ポータルサイト、売店での特設展示ブースの展開を行い、広く各課への利用を促した。また奈良市議会 常任委員会 観光文教水道委員会」にて本商品を質疑事項として取り上げていただいた。

利用風景(特設展示ブース：奈良市役所本庁舎売店前)



4. 3. 全体のまとめ

公共施設における会議等でのリユースびん商品の普及では、生駒市並びに奈良市との高度な連携体制を構築でき、互いの意思疎通がはっきりとできた。両市ともに地球環境に対する意識が高く、本事業についても導入に向けて積極的な協議ができ、市として本商品の導入に至ることができた。

また、公共施設での普及においてはこの他、奈良県庁売店でも導入しており、普及拡大に向けてアプローチを継続している。

4. 4. 奈良県内ホテル・旅館での普及

奈良県内のホテル・旅館が182軒加盟している「奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合」と連携体制を構築し、普及を図った。同組合より本商品の告知案内を実施し、既に4軒の旅館にて利用を開始している。また、随時アプローチしており、普及拡大を図っている。

1) 利用用途について

施設内で開催される会議や宴会、またウェルカムドリンクとして利用を開始している。

1) 利用を開始している旅館

春日ホテル(奈良県奈良市登大路町40)

収容人数150名

<http://www.kasuga-hotel.co.jp/>



吉野荘 湯川屋(奈良県吉野山440)

収容人数70名

<http://www.yukaway.com/>



湯元 宝の家(奈良県吉野山947)

収容人数:80名

<http://www.hounoya.gr.jp/>



さこや(奈良県吉野山2620)

収容人数:120名

<http://www.sakoya.co.jp/>



4. 5. 奈良県内飲食店での普及

奈良市・南都銀行・各商店街振興組合が共同出資して設立された「株式会社 まちづくり奈良」との連携体制を構築した。奈良市を中心とする飲食店に本商品の告知及び利用を図った。また、同社が関連するイベント・会議等で本商品の利用を開始している。

飲食店においては、奈良県内約30店舗での利用を開始しており、今後も利用拡大が予想される。

利用用途

「第5回 あるくん奈良まちなかバル きらっ都 シネマ」(映画上映):セットドリンク

URL:http://www.nara-cci.or.jp/~chukatsu/machinaka_bal/

「奈良まちなかつアリズム」:イベント利用



5. 普及実績

- ・第1期製造本数:9000本(平成24年11月16日製造)
- ・普及本数:約4800本(200ケース/24本)(平成25年2月28日時点)
- ・回収本数:約4400本(184ケース/24本)

※想定値:各普及先にて在庫及び空き瓶の保管があるため。

6. 使用済みびんの廃棄物処理に伴う費用の削減量

本実証事業のリユースびん商品普及対象で、ワンウェイびん商品からリユースびん商品に置き換わった場合。※本商品普及実績(平成25年2月28日)をもとに計算

- ・ワンウェイびんの質量:250g(想定)
- ・リユースされた本数:4400本
- ・リユースされる重量:4400本×250g=1.1トン
- ・削減される自治体が負担する回収費用(税金):1.1トン×45,000円(※)=**49,500円**

※45,000円/tは、「奈良の一般廃棄物処理事業の概要」(平成18年度版 奈良県くらし創造部 景観・環境局 廃棄物対策課)より出典

7. 本事業実施における課題

公共施設でのリユースびん商品の普及において、地方公共団体と連携体制を構築し、導入に至るまでに時間を有した。導入を対象とする市町村において、高度な意思疎通を実現させるためには多くの時間を有数必要があるが、リユースびん商品の導入による環境的意義の重要性についていかに伝え、理解を深めるかが課題である。

「奈良県びんリユース推進協議会」について立ち上げにより多様な団体との連携を強化し、推進体制を整える必要がある。

8. 本事業実施を通しての今後の展望

現在、地方公共団体として本商品の導入を実施しているのは、生駒市並びに奈良市となっている。これを他の市町村へ拡大し、びんリユースシステムの普及を図っていく。

また、奈良県でのびんリユースシステムをモデルとして、他都道府県でのびんリユースシステムを構築していきたい。

9. 本事業の総括

本事業では、奈良県内の地方公共団体と連携体制を構築し、公共施設におけるリユースびん商品の導入を実施することができた。すでに生駒市並びに奈良市では、会議等で本商品の利用が開始され、広くリユース概念の発信に寄与できている。また、ホテル・旅館及び飲食店での利用拡大が見込まれ、びんリユースシステムの拡大、継続的な事業展開に向けて大きな一歩を踏み出している。

本商品においては、地域特産品を用い、地域経済の振興に寄与できるものとしたことにより、リユースびんの環境的意義はもとより、地域的意義を社会へ同時に発信することができた。

今後も本商品を通したびんリユースシステムの拡大に向けて努力を惜しまない所存である。

最後に本事業にあたり、多大なる協力を賜った 20 以上もの企業・団体に心より謝意を表明する。

10. 備考

本事業実施でのメディア掲載

1)新聞社

朝日新聞社

読売新聞社

産経新聞社

毎日新聞社

奈良新聞社

奈良経済新聞社

※順不同

2)テレビ

奈良テレビ

NHK 奈良放送局

※順不同

本報告書は、「平成 24 年度 環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業報告書」として作成された。

平成 24 年度
びんリユースシステム構築に向けた実証事業
奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業報告書

平成 25 年 2 月

発行 World Seed

住所 〒581-0003 大阪府八尾市本町 1 丁目 5 番地 10 号
本町プラザ 301 号 岡見 方
